



● 腎臓内科 勤務医師紹介

| 氏名 | 役職 | 所属学会・資格など |
|--------|------------------|--|
| 丹田 修司 | 副部長 腎・透析センター長 | 日本腎臓学会（専門医・指導医） 日本透析医学会（専門医・指導医） 日本内科学会（認定医・総合内科専門医・指導医） |
| 迫田 知佳子 | 医長 | 日本内科学会（認定医・総合内科専門医） 日本腎臓学会（専門医） 日本透析医学会（専門医） |
| 西原 孝明 | 副医長 | 日本内科学会（認定医） |
| 田本 勇太 | 副医長 | 日本内科学会（認定医） |

● 診療科について

○腎臓内科について

当科では種々の段階の腎臓病患者さんに対する精査加療を行っています。腎生検、保存期腎不全教育入院、透析導入（血液・腹膜）の3つのクリティカルパス入院を中心に診療を行っています。その他、感染症、薬剤による急性腎障害や電解質・酸塩基異常などの精査加療を行っています。中でも腎臓病の早期発見、早期介入（腎生検含む）に最も力を入れ、予後改善につながるように尽力しています。

○腎・透析センター開設

平成27年2月に腎・透析センターを開設しています。もともとは6床であった透析室から17床に増床しました。血液透析、その他の種々の血液浄化療法に対応できる体制を整え、より幅広い診療を行えることを目指しています。

○施設認定

- ・日本腎臓学会専門医制度研修施設
- ・日本透析医学会専門医制度認定施設

● 勤務状況

4人の常勤医で主に業務を行っています。

一人当たりの外来出番は週に1-2日、入院主治医担当は5-8人程度です。

当院では内科系の各科で総合内科業務を兼務していますので

総合内科外来、総合内科救急番の出番も担当してもらい、腎臓内科だけでなく、幅広く内科疾患を体験し学んでもらう方針です。救急番は週あたり半日が充てられます。

基本は主治医制ですが、業務の分担をしており、当直明けはできるだけ昼までには帰ってもらうようにし、休みを取りやすいようにしています。

● 求める医師像

患者ファーストで真摯に働いてくれる方を募集しています。経験年数は問いません。ともに学ん

でゆければと思います。内科系は京都府立医科大学の関連施設ですが、一般公募もしており、学閥を気にすることなく業務に集中していただける環境です。

● 実績

| | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-----------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 腎生検 | 18例 | 29例 | 24例 | 29例 | 40例 |
| 血液透析新規導入 | 26例 | 26例 | 26例 | 43例 | 35例 |
| 腹膜透析新規導入 | 3例 | 3例 | 0例 | 2例 | 0例 |
| CHDF | 9例(25日) | 14例(74日) | 18例(70日) | 16例(43日) | 5例(11日) |
| エンドトキシン 吸着療法 | 4例(5日) | 6例(12日) | 11例(21日) | 6例(15日) | 3例(6日) |
| 血漿交換 | 3例(30日) | 1例(3日) | 7例(27日) | 5例(27日) | 3例(13日) |
| ICUでの血液透析 | 18例(65日) | (61日) | 21例(50日) | 22例(65日) | 22例(55日) |

● その他

○レジャー(フェリーで行く恒例の淡路寿司ツアー)

